

04

BOOK-GUIDE

佐田地域の本

佐田地域は、総面積109km²のうち、85%が山林で占められた、海に面しない中山間地の町です。

緑に包まれた町の中心には、南から北に向かって神戸川が流れ、清流に育まれた自然豊かな暮らしが営まれています。

町の人口も年々減少し、高齢化、過疎化が深刻になっていますが、毎年定期的に行われる「出雲歌舞伎むらくも座」公演や、近年パワースポットとして全国から多くの人を集める須佐神社など、地域を活性化させる素材も多く、「緑と夢とふれあいのまち」を創出する地域づくりがすすめられています。

04

佐田地域の本



BOOK GUIDE

●さだちょうし

佐田町史

発行者 佐田町教育委員会

出版年 昭和51年（1976）

歴

合併20周年を迎える年に発刊された、佐田町について最も詳しい郷土誌です。

本書は、総論として町の沿革や環境を記載したあと、先史時代から近代までの歴史を満遍なく詳述しています。特に近世の章では、町内に多い鉢たらについて一節を設けているほか、近代では大社宮島鉄道についても言及するなど、佐田らしさも盛り込まれています。

また第3編として、民俗や文化財について大きく取り上げているのも、すべて在住の執筆者で編集された本町史の特色といえます。

●さだちょうあのひあのとき

佐田町あの日あの時

発行者 佐田町役場

出版年 平成17年（2005）

写 歴

平成17年の2市4町合併に伴う、佐田町の閉庁記念として発刊された記念誌です。

本書では、昭和31年の佐田村誕生以降の主要なできごとを、伝えおく50話として厳選して収録し、さらに町内13地域の振興協議会ごとの地域づくりの姿もあわせて紹介しています。

資料編では、歴代の町長、議長の変遷や町のあゆみを年表として掲載しています。



●くぼたそんし

窪田村誌

著者名 児玉義晴 編

発行者 窪田村役場 出版年 昭和31年（1956）

歴

須佐村と合併して佐田村になるにあたり、窪田村解村を記念して発刊された村誌です。

今までの村誌が人物偏重であったのを改め、政治・経済・産業など、幅広い分野を収録することを心掛け、体系的な村誌となっています。

ただ、村の歴史については項を設けることなく、「付録」として吉栗山や加賀谷の鑓よしごりさんなどが掲載されているに過ぎません。また、「其の他」として、橋波石橋家と栗原家の家系などを記載しています。

●ふるさとひがしそく

ふるさと東須佐

発行者 東須佐の歴史編纂委員会 出版年 平成22年（2010）

歴

合併によって閉館となる地区公民館の記念事業として発刊された郷土誌です。

須佐神社に代表されるような古くから栄えた地区として、遺跡や文化財、神社などの歴史文化遺産を特に重点的に記述しています。なかでも、出雲地方の方言にはない、この地域独特の言葉を掲載した第3章は参考になります。

また巻末には、東須佐郷土史写真集として、地区の皆さんから提供された貴重な写真を、「自然と災害」、「神社仏閣」など10項目に区分して掲載しています。



●さだちょうのみんぞくぶんかいさん

佐田町の民俗文化遺産

発行者 佐田町 佐田町教育委員会

出版年 昭和57年（1982）

社

佐田町の石碑、石仏などの民俗遺産をまとめて発刊した郷土誌です。

本書は、町内各所に眠る石仏などを、「叢祠・小堂・石仏・石神等(仏教系)」、「叢祠・小堂・石仏・石神等(神道系)」、「山頂の遺跡」、「石碑・石塔」、「狛犬・神狐・手洗鉢」、「鳥居」に区分して、解説と代表的な民俗事例を掲載しています。

なお、本書を作成するにあたり、分布調査によって約430件が確認され、それらは巻末に調査一覧表として掲載されています。

●さだちょうのいせき ひがしそく

佐田町の遺跡 東須佐地区

発行者 佐田町教育委員会

出版年 昭和62年（1987）

歴

東須佐地区の埋蔵文化財をまとめた調査報告です。

本書は、国・県の補助を受けて昭和61年度から昭和63年度まで実施した遺跡詳細分布調査のうち、8ヶ月にわたった昭和61年度の東須佐地区での現地調査の結果を報告したもので

なお、昭和62年度には「窪田地区」を、昭和63年度には「西須佐地区」の調査が行われ、それぞれ報告書が発刊されています。

これら3冊は、佐田町の詳しい埋蔵文化財を知るうえで、大変参考になる刊行物です。

●さだちょうのみんわとみんよう

佐田町の民話と民謡

発行者 佐田町 佐田町教育委員会

出版年 昭和61年(1986)

社

急激な社会の移り変わりのなかで、急速に失われつつある貴重な文化遺産である、民話、民謡、口碑伝説などを幅広く集録した意義のある一冊です。



本書は、これまでに出版された文献のほか、町内在住の多くの伝承者を訪ねて調査した労作で、なかでも町内各地域に残る地名について多くの頁を割いて詳述しています。

また本文中には、写真、イラストのほか、染物屋で使われた型紙の図柄を抜き出したものも使われるなど、誌面に親しまれる工夫もみられます。

●さだちょうよこみまいばつりんちうさほうこくしょ

佐田町・横見埋没林調査報告書

発行者 佐田町教育委員会

出版年 平成16年(2004)

自

調査の結果、日本で2番目に古い埋没林であることがわかった横見埋没林の調査報告書です。本書は、平成15年5月に佐田町上橋波で発見された横見埋没林の発見からの経緯や調査検討委員会の活動を含めて、これまでに行われた調査研究の成果がまとめられています。きわめて学術的な調査報告ですが、横見埋没林を知るうえでは欠かせない一冊です。

●しゃしんで見るやわたばらがわのこんじやく

写真で見る八幡原川の今昔

発行者 八幡原川振興協議会

出版年 平成17年(2005)

写

歴

地域学習活動の5年目の節目として発刊された地域写真集です。本書は、川とともに育まれた八幡原川の歴史を写真でたどったものですが、昭和から平成の写真のなかにあって、大正末期の乙立発電所八幡原ダム建設現場などの貴重な写真なども収録されています。

内容としては、八幡原小学校の歴史のほか、各地区や地域活動、各種施設などの写真がありますが、関心の高い川や橋、洪水の状況などが多く掲載されています。

●おもいでのあじ

思い出の味

著者名 佐田町生活改善友の会 編

発行者 佐田町 出版年 昭和55年(1980)

技

佐田町内に伝承されている貴重な郷の味として、生活改善友の会の人たちが資料を探したり、訪ね歩いたりして編集したものです。

本書には、忘れ去られようとしている伝統の味、季節の味を中心に、山菜料理や漬物、菓子、農産加工品などの料理法を、材料、作り方、食べ方、由来、勘どころについて記載されて

います。

特に、山や川の恵みを活かした、アユや毛がに料理、山芋やぜんまい、わらびなどを取り入れた山菜料理は、この地域のふるさとの味として、受け継がれるべき伝統の味といえます。

COLUMN 4

行政刊行物

社

出版物は大きく分けると、個人や出版社など民間が発刊する刊行物と、国や県・市町村などの行政が発刊する刊行物があります。

行政刊行物としては、要覧、年報、紀要などの逐次刊行物がありますが、そのうち要覧は、市勢要覧、町勢要覧、学校要覧など広く刊行されています。また、週報や月報として、広報も各市町村から定期的に発刊されている馴染みの資料です。さらには、各種の統計も数多くの機関から公表され、国勢調査の結果を報告した国勢調査報告や島根県内の基本統計を収録した島根県統計書などがその代表的なものといえます。

そのほか、行政の各機関から発刊されるものの中には、学校の沿革をまとめた学校史や、研究成果をまとめた紀要なども必ずといっていいほど発刊されていますし、その多種多様な文献からの情報量は膨大なものがあります。

<広報>

出雲市週報(週報いづも) 第1号～第2394号

発行者 出雲市
出版年 昭和31年(1956)～平成17年(2005)

広報いづも 第1号～

発行者 出雲市
出版年 平成17年合併から、月1回発行

<統計書>

国勢調査報告

発行者 島根県
出版年 大正15年(1926)～

島根県統計書

発行者 島根県
出版年 昭和23年(1948)～

<広報縮刷版>

市報ひらた縮刷版 上・下

発行者 平田市
出版年 昭和60年(1985)

広報さだ縮刷版(全3巻)

発行者 佐田町
出版年 昭和54年(1979)～平成14年(2002)

広報たき(全4巻)

発行者 多伎町
出版年 昭和54年(1979)～平成17年(2005)

広報こりょう縮刷版(全3巻)

発行者 湖陵町
出版年 昭和61年(1986)～平成17年(2005)

週報たいしゃ 第414号～第1228号

発行者 大社町
出版年 昭和51年(1976)～平成10年(1998)

広報たいしゃ縮刷版(全4巻)

発行者 大社町
出版年 昭和56年(1981)～平成17年(2005)

広報ひかわ縮刷版

上・下巻
昭和完結編
平成編(全3巻)

発行者 斐川町
出版年 昭和55年(1980)～平成23年(2011)

出雲の芸術と文学

出雲は、豊かな自然と歴史遺産に恵まれた風土のなかで、中央から多くの文人墨客が訪れ、古代から芸術と文学が培われてきました。

そうしたなかで、文学としては、古くは俳人の原石鼎など、中央でも活躍する文人を輩出し、在野の文壇を牽引しています。戦後においても、『巨食症の明けない夜明け』でデビューした小説家の松本侑子をはじめ、多くの作家が活躍しています。そして、出雲ゆかりの主な文人は、『人物しまね文学館』などで知ることができます。

芸術の分野においても、出雲で生まれ、また出雲で一時期を過ごした芸術家のなかでは、反辺村（現出雲市佐田町）に生まれ、肖像画家として高名な石橋和訓、幼少の頃に平田で過ごした日本画家の小村大雲や落合朗風、出雲市に生まれた洋画家の矢田清四郎、矢田安史郎など多く芸術家を輩出し、出雲の美術界をリードしてきています。そして、これらの芸術家については、『山陰の美術家たち』などで紹介されています。

<芸術>

山陰の美術家たち

著者名 山本晴男
発行者 リード盟通
出版年 平成12年（2000）

出雲市三十年誌

発行者 出雲市役所
出版年 昭和48年（1973）
第七編 文化（美術工芸）

平田市大事典

発行者 平田市役所
出版年 平成12年（2000）

佐田町史

発行者 佐田町教育委員会
出版年 昭和51年（1976）
第七節 第三目（芸術、文化）

<文学>

出雲俳句史

著者名 桑原視草
発行者 だるま堂書店
出版年 昭和53年（1978）
私家版（昭和12年）の限定復刻

人物しまね文学館

著者名 島根県文学館推進協議会 編
発行者 山陰中央新報社
出版年 平成22年（2010）

ふるさと文学館

著者名 日本アート・センター 編
発行者 ぎょうせい
出版年 平成5年（1993）
第38巻 島根

新山陰小説風土記

著者名 小糠しのぶほか
発行者 山陰中央新報社
出版年 平成7年（1995）